地勢

佐賀村

〔津島紀事統一體〕本州北を上縣郡とし、南を下縣郡とす、南北廿六里、豊村より豆酘村まで南北道法廿五里卅四町半、廿六里は成潮なり、南北豆酘崎より鰐浦垂髪瀬の韓崎までの直經ハ十六里十八町有之、東西の廣狹は村の處に記し置くなり、東西或は四五里或は二三里、陶山存云く、本州を平地として積るときは縦十七里計、横二里半計、凡一坪にしてこれを積れば、四十二坪半ばかり、その內田畠也(地の平なる處を坪と云ふ)愚按るに、州內の土地多くは白色なり、是西方の正色をあらはすものか、山地はすべて赤地、勝火剋金にて、國土の性に剋するの色なりしゆへ、穀物宜からざるならん、武用辨略に對馬四方一日半、小下國なりと記せり、周り百八十三里三町五十七間三尺九寸、海汀の出入を細に引廻し里數なり、浦々等を除き、大方を引廻せば四十里と十九町五十六間一尺八寸二分、是大外の周なり、山多くして田少なく、土地惡くして民貧き故下國とす、

〔海東諸國記〕對馬島　郡八、人戸皆沿海浦而居、凡八十浦、南北三日程、東西或一日、或半日程、四面皆石山、土瘠民貧、以煮鹽捕魚販賣為生、宗氏世為島主、其先宗慶死、子靈鑑嗣、靈鑑死、子貞茂嗣、貞茂死、子貞盛嗣、貞盛死、子成職嗣、成職死而無嗣、丁亥年島人立貞盛母弟盛國之子貞國為島主、郡守而下土官皆島主差任、亦世襲、以土田鹽戸分屬之、為三番、七日相遞、會守島主之家、郡守各於其境、毎年蹈驗損實、收税取三分之一、又三分其一、輸二于島主、自用其一、島主牧馬場四所、可二千餘匹、馬多曲背、所產柑橘木楮耳、南北有高山、皆名天神、南稱子神、北稱母神、俗尚神、家々以素饌祭之、山之草木禽獸、人無敢犯者、罪人走入神堂、則亦不敢追捕、島在海東諸島要衝、諸酋之往來於我者、必經之地、皆受島主文引、而後乃來、島主而下各遣使船、歲有定額、以島最近於我而貧甚、歲賜米有差、

〔日本地誌提要七十四對馬〕形勢　日本海ノ西北隅ニ位シ、島形東西ニ狹ク、南北ニ長シ、中央劈開シテ一大灣ヲ成シ、大艦巨舶ヲ容ルベシ、島內峯巒相接シ、地多ク薄瘠、播殖ニ宜シカラズ、居民穀ヲ內地ニ仰ギ、利ヲ海ニ採リ、朝鮮ノ互市ヲ以テ、營生ノ主ト為ス、風俗固陋、氣候極暑九拾度、極寒三拾度、